

# アーレント 『活動的生』

## 第二章

上村 泰裕 (名古屋大学)

## 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

### 4 人間は社会的動物か、それとも政治的動物か

---

- 人間は世界のなかに生まれるが、世界のほうも人間あって存在する。p31
- 人間とはポリス的生き物(政治的動物)。社会的動物はラテン語由来。p32
- ギリシア人の考えでは、政治的組織を作る能力は家の共生とは別。p33
- ポリスに生きるとは、強制や暴力でなく言葉によって統治すること。p35
- 古代ギリシアでは、ともに語り合うことがポリス市民の中心的関心事。p36

# 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

## 5 ポリスと家政

---

- 公私の区別は、家政の領域とポリス的な空間の区別に対応している。p37
- 家政は必然が支配する領域。人間の生活の必要によって導かれる。p39
- ポリスは自由の領域。家政の内部で必要を賄うことを条件とする。p39
- 家政では支配が正当化されたが、ポリスは自由人の政治参加の場。p40
- 近代社会の成立とともに、家政や経済の問題が公的関心事に昇進。p42

# 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

## 6 社会の成立

---

- 家政が私的な暗がりから公的領域に出てきて社会的なものが成立。p46
- 国民国家最終段階の福祉国家は、政治を欠いた非人格的な支配。p50
- 個人の卓越した行為は排除され、官僚制が平均的行動を制御する。p50
- 大衆社会は人類の生命維持を保証したが、人間性を死滅させる。p57
- 社会の膨脹によって、内面的なものと政治的なものがともに無力化。p58

## 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

### 7 公的空間——共通なもの

---

- 公的空間では、重要だと承認されたもの以外は私事と化す。p63
- 物の世界が人間を相互に結びつけ、人間の寿命を越えて持続する。p64
- 公的なものは輝き続け、人々はそれを通じて不死を得ようとした。p68
- 現代では公的空間は消失し、賞讃は消費の対象となった。p70
- 公的空間の現実性は、他者が別々の位置から見ることで生じる。p70

## 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

### 8 私的領域——財産と占有物

---

- 見られることによって成立する公的空間と、隠された私的領域。p72
- 大衆社会は、公的空間のみならず私的領域も破壊する。p73
- 私的領域は秘匿性の場所。人間の誕生と死はそこで起こる。p77
- 財産(不動産)や占有物(貯金)が自由と参加の基盤。p77
- 脱固有化による私有財産の没収で資本主義が成立。p80

## 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

### 9 社会的なものと私的なもの

---

- 社会が成立したのは、私的占有物が公共の事柄になり始めた瞬間。p81
- 資本主義の成立によって私的な富が永続性を帯び始めた。p82
- 物は交換可能性に還元され、世界は不気味に脱物象化した。p84
- 再生産労働を担う女性と奴隷(労働者)が公的空間に放り出された。p88
- 労働と貧困は近代初期には犯罪のように取り扱われた。p88

## 第二章 公的なものの空間と、私的なものの領域

### 10 活動の場所指定

---

- 隠されるべきものあれば、公的に見られてこそ栄える事物もある。p89
- 人間の活動は、それにふさわしい場所を世界のうちにもつ。p89
- 善行の例。公的に周知となれば定義からして偽善となる。p90